

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに理念の掲示をしている。ミーティング時に全員で唱和をし、理念を基に統一したケアを実践出来る様取り組んでいる。	法人の社是や経営理念を基にホーム独自の理念を立てている。今年度は昨年度の理念を継続し、職員会議や申し送り時などに確認するようにしている。また理念はホールに掲示され、外部の方にもわかるようにしている。職員には理念に外れたような言動はなく、利用者からの評判は良いという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアや保育園との交流を行ったり、散歩時などに挨拶を心がけている。どんど焼きや盆踊りへの参加もしている。	自治会に加入して区費を納め、年6回の会合にも管理者が出席している。随時、地域の催し物などの情報が伝えられ、利用者と共に盆踊りやどんど焼きなどへ参加し、地域住民とのコミュニケーションを図り、ホームの夏祭りには地域の方にも参加を呼び掛けている。また、毎月1回事業所で地域の方や利用者、職員が参加するお茶会があり、保育園児との交流や中高生のサマーチャレンジなどの受け入れも行っている。フラダンス、琴のボランティア、手話ダンス、太鼓などのボランティアも来訪しており、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の西部包括支援センター等と協力し認知症の人の支援や理解を活かし、地域貢献できるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告を行う中でいだける意見やアイデアを参考に、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回偶数月に併設事業所と合同で開催し、家族、自治会長、民生委員、消防署員、交番署員、上田市職員、地域包括支援センター職員、グループホーム職員、看護小規模型居宅介護事業所職員が参加している。活動状況や利用者状況、行事報告、事故報告等を伝え、様々な意見交換を行っている。都合がつかず、家族の参加は時々になってしまうが、事前に意見を伺い会議で反映させるようにしている。また会議で出た意見は職員会議で報告し必要時には検討するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて意見交換・情報共有を行い、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議以外でも随時市の関係部署に報告、相談をしている。介護認定更新の際は調査員がホームに来訪し、家族と職員が立ち会い、ホームで申請代行も行っている。また3ヶ月に1回介護相談員が来訪し、利用者とのコミュニケーションを取り、何かあれば職員へフィードバックしている。市や外部団体主催の研修会などの情報は職員へ提供し参加を促している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の無いケアの実践のため、身体拘束に関する研修を行い職員が正しく理解し深められるよう取り組んでいる。	玄関の施錠やセンサーマットの使用は行っていない。職員は法人の身体拘束に関するマニュアル学習や支店で実施される身体拘束、虐待に関する研修を受講し、人権意識を高めている。万が一拘束が必要になった場合はホームで検討後、支店へ検討結果を報告し、許可を取らなければ実施できないようになっている。現在外出傾向の利用者がいるが、見守りや傾聴することにより、落ち着かれている。	

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を実施し、全職員が正しい知識で理解を深め虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会などの機会を持ち、正しく理解を深められるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約等の際には十分な時間を確保し、説明を行う。疑問や不安がある際には納得していただけるよう説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に、管理者や職員との会話の機会を持ち、日々の様子や変化が分かる様に働きかけている。 行事のお誘いや家族会を企画するが参加者が限られ集まる数が少ない。	ほとんどの利用者が自分の意見や要望を伝えることが出来るが、表出できない利用者については家族の情報、生活歴、表情、仕草などから汲み取るようにしている。家族の面会は毎週来訪したり、2ヶ月に1回来訪する方などまちまちだが、面会時や電話などで随時様子を伝えたり、意見や要望を聴くようにしている。また家族には誕生日会、夏祭り、敬老会などに参加を呼び掛けているが、家族のライフスタイルの多様化などもあり参加することが難しくなっている。3ヶ月に1回「緑ヶ丘通信」を発行し、家族や地域住民へ配布し、ホームでの様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや日々の中での意見交換を行い、提案できるよう取り組んでいる。必要時には管理者が面談の時間を確保している。	毎月職員参加の業務ミーティングがあり、法人からの伝達事項、係からの報告、利用者カンファレンス、研修などを実施している。年1回管理者と職員の面談があり、必要時には個別に面談し、職員の意見や要望を聴いている。また法人内でも研修があり、職員のスキルアップの場も設けられている。法人としてストレスチェックを実施し、職員のメンタル面にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて面談を行い、職員の思いや希望を共有できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で毎月研修を行っている。 法人内外問わず開催される研修会の周知を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は行っていないが、今後物忘れネットワーク等参加し、サービスの質の向上に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話からのみでなく非言語からの様子も汲み、安心した暮らしの信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学時や入居申し込み時に十分な時間をとって話を聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を優先として求めているか・必要としているかを見極め話し合い、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの生活リズムを中心に互いが支え合う暮らしを送れる様関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関わりが増えるよう働きかけ暮らしを感じる時間を持っていただくことで、ご家族にも現状の理解をしていただき共に本人を支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関わりを継続できるよう家族との外出機会作りや誰でも面会に訪訪できる雰囲気作りに取り組んでいる。	友人や知人の来訪は少ないが、家族と一緒に馴染みの美容室へ行ったり、お盆や年末年始に外出や外泊される利用者もいる。季節の概念が失われつつあるため、ホーム内で季節を感じられる工夫をするだけでなく、家族にも利用者と一緒に外出や外泊をしていただくように促している。また利用者の中にはホーム利用前の習慣であった晩酌を毎晩している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で築かれた関係性や個々の性格・能力を把握し、互いを支え合う生活を送れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な時には、これまでの関係を大切に相談や支援をしていけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動の裏側を捉え、支援できるよう努めている。職員の気づきからも思いや希望への繋がりを検討している。	センター方式での情報や利用者の言動、表情、仕草、生活歴、家族からの情報等を基に思いや意向の把握に努めている。また日常のつづきなども拾い上げ、記録に残すようにしている。以前好きだったことややっていたことを継続することが難しくなってきたが、可能な限り職員が付き添い、縫い物や貼り絵、畑作業等を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族への聞き取りや本人との関わりからセンター方式を作成し把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしで見えてくる変化や様子を記録し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録や毎月開催のミーティングから変化や現状の把握をし、話し合いを行い作成を行っている。	計画作成担当者が利用者担当職員が記入した日常生活支援シートやセンター方式の情報を基にモニタリングし、利用者、家族の意向やサービス担当者会議の情報を基に介護計画を作成している。長期目標は1年、短期目標は6ヶ月で設定し、入居間もない時は短期目標を短く設定し、随時更新している。また身体状況に変化があった場合はその都度更新している。介護計画作成の際には排便コントロールも重要視している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を介護記録へ記録し、職員全員が把握している。必要時にはケア方法を話し合い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化するニーズへの支援を職員で意見交換し、対応できるよう取り組んでいる。		

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、ボランティアや自治会等と協力し、安全に日々を過ごせるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診はご家族対応とし、希望がある際は提携医の往診を行っている。	かかりつけ医を利用している利用者が3名おり、家族対応で受診していただいている。協力医へはスタッフが付き添い受診し、医療機関には文書や電話で情報提供している。また受診後には家族に結果や状態を伝えている。必要時には協力医の往診があり、毎月1回歯科医の訪問診療もある。昨年訪問看護と契約し医療連携体制が整い、24時間のオンコールが可能となった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり週一回訪問看護に来ていただき、健康管理や相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者との連帯をとり、早期退院や退院後の安心した生活を提供できるよう情報共有等に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制に伴い重度化した場合や看取りに関する方針の説明を行った。対応が可能であり希望がある際には、ご家族・医療機関の協力を得て支援を行っている。	入居時には重度化や看取りに関する指針に基づいて利用者、家族に説明し、昨年度医療連携体制の整備に伴い、再度家族に説明を行った。現在まで直接のターミナルケアはないが、緊急時対応や応急処置に関する研修を実施し、万が一に備えている。今後業務ミーティングなどで看取りに関する学習もしていく予定があるという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応や応急手当に関する研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害時対応の職員研修も行い災害時に備えている。訓練時は地域の方にお知らせを行っているが参加には至っていない。	年2回昼・夜の想定でそれぞれ1回ずつ実施している。1回は地震想定で行い、全利用者が避難した。地域住民にも参加を呼び掛けているが、都合が合わず、参加に至っていない。また今年度地区の防災訓練に職員が参加する予定であったが、実施されなかった。缶詰や冷凍食品などの食料品や介護用品の備蓄はあり、緊急連絡網や防災マニュアルも整備され、万が一に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の人格や誇りを理解し尊重した対応に努めている。	日頃利用者に対して苗字に「さん」付けで声掛けをしている。職員はプライバシーに関する研修や虐待に関する研修、コンプライアンスに関する研修などを受け、人権意識を高めている。男性スタッフが3名おり、現在異性介助を拒否される利用者はいないが、必要時は配慮するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要求や思いを表現できるよう声掛けや環境を整えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムを考慮し、希望や言動を受けありのままに生活できる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で頭髪を整えたり、外出時には早めに伝え着替えや化粧を行えるように支援している。 ご家族に馴染みの美容室や理髪店に連れていていただいたり、美容師の出張でヘアカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は配膳を一緒に行ったり、献立の相談を行っている。本人たちで育てた野菜や季節の旬を選ぶようにしている。また、食後は下膳・食器拭きなどを行っていただいている。	食事の形態は全員が常食で、ほとんどの方が自力摂取でき、1名の方が介助が必要となっている。献立はその日の職員が考え、利用者の希望を聴いたり、ホームの畑の食材も使用して調理している。ホームの畑では夏野菜を中心に育てており、今年度は初めてサツマイモ作りにチャレンジした。また利用者には配下膳や食器ふき、下ごしらえや味見等出来ることはなるべくやってもらうようにしている。訪問調査日には食後に下膳している利用者の姿が見受けられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を把握し、調節や形態を変え栄養摂取出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを行い食後のケアを行っている。毎月一回歯科医の訪問診療を行い口腔状態の確認を行っている。		

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるよう排泄パターンの把握や動き・表情に注意し、必要に応じて声掛けを行っている。	2名の方が布パンツ使用で、他の方はリハビリパンツを使用している。排泄チェック表や表情、言動、仕草などから排泄パターンを把握し、誘導している。日常生活の中で排便は重要と捉え、排便コントロールにも力を入れている。また排泄方法の変更や排泄用品の選択時にはその都度家族に状況を説明し承諾を得るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握や栄養バランスを考えた食事の提供・水分摂取を行っている。必要に応じて提携医への相談もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けを行いできる限り本人の希望に添えるよう日程を調節する等して取り組んでいる。	利用者は週に2回、声掛けや見守り、一部介助を受け入浴している。現在二人介助で入浴される方はいないが、入浴を拒否する利用者には声掛けを工夫したり、スタッフが交替したり、時間や日にちをずらしたりして柔軟に対応している。また、随時、リング湯など、入浴を楽しむことの出来る機会を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースでの休息が取れるよう声掛けや午睡の時間をさせていただいている。定期的にシーツの交換を行うことで気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の使用している薬を把握し、支援や変化を情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や料理・裁縫等お願いし一緒に役割を感じられるようにしている。また、お茶会や保育園児との交流が気分転換になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩で出かけた外食や紅葉狩りなどの計画を立て外出の機会を支援している。	外出の際、車いすが必要になる利用者は2名おり、日常的にはホーム周辺を散歩したり、近所のバラが咲いているお宅へ出掛けたり、時期にはホームの畑へ毎日出たりしている。また約2ヶ月に1回行事外出が出来るように計画し、新緑ツアー、紅葉狩り、デザート外食、外食ツアーなどへ出掛けている。利用者の中には家族と外食へ出掛けられる方も数名いる。外出以外ではホールで体操や風船パレー、棒体操など、体を動かす機会を作っている。	

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金をお預かりし、事務所の金庫内で管理している。外出時などは支払いを行えるよう取り組んでいく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出があれば家族や馴染みの人との連絡がとれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けや制作物を飾り、明るくなるように目指している。	ホールは床暖房とエアコンで空調管理され、寒さを感じることはなかった。ホールの一角にカーペットの上に椅子が数脚置かれたくつろぐことのできるスペースがあり、行事の時の写真や季節を感じることが出来る貼り絵が飾られていた。また、ホーム内で初詣が出来るようにホールに手作り神社も置かれていた。トイレは3ヶ所あり、1ヶ所は男性用トイレも設置された広い造りとなっている。浴室はユニットバスになっており、半埋め込み式の2方向からの介助が可能で、脱衣室も広く、車いすの方もゆったりと利用できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア各所に椅子を用意しており、床暖房なのでカーペットを敷きそれぞれが自由な場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し、希望するものや必要なものを持ち込み、居心地良く安心して過ごせるよう工夫を行っている。	エアコンとクローゼットが備え付けられており、窓からの採光も良く、明るい。居室には使い慣れたタンスやベッド、テレビ、テーブルなどが置かれていたり、故人の位牌や仏具なども置かれていた。中には壁に写真やアクティビティーで作成した塗り絵が飾られている居室もあり、生活感を感じることが出来た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かし生活できる様、トイレや居室を分かりやすくする掲示をしている。手すりや段差等バリアフリーになっている。		